



3月9日、今年の4月から入職する新卒(学卒)内定者のための研修が行われました。  
4月から入職するフレッシュマンたちに、エールをお願いいたします。



目次 contents

- 01 令和3年度 いたるセンター事業方針案について  
谷山哲浩理事長
- 02 令和2年度第4回職員研修特集  
コロナ禍におけるBCP  
職員の感想
- 03 包括ケアセンター  
グループホーム事業部  
世田谷区成城9丁目の  
グループホーム「アント」、  
令和3年5月に開設します  
イタル成城  
生活介護事業部  
「語りかけるものたち」展にて、  
イタル成城のご利用者様の  
作品を展覧
- 04 令和3年度新卒  
(学卒) 内定者研修  
現在、鋭意制作中！  
新法人ウェブサイトに  
ご期待ください

令和3年度 いたるセンター事業方針案について

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 哲浩

日頃は、社会福祉法人いたるセンターに多大なるご支援ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。さてこの度、令和3年度の「社会福祉法人いたるセンター・事業方針案」を策定しましたので、ご報告申し上げます。

令和3年度事業方針案

I はじめに

社会福祉法人いたるセンターは、今年度を「第二の創業期」と位置づけ、新型コロナウイルス感染症拡大を克服するとともに、社会福祉法人いたるセンターが「大きく変わる」一年とします。

コロナの第三波により、大変な状況となっております。新型コロナウイルス感染症による重症者や死者の報道を見るたびに心を痛め、重苦しい閉塞感が漂っています。この「大変」な事態にあつて、どう生きると書き、何をすべきかをひたすら考えました。「大変」という漢字は、「大きく変わる」と書きます。つまり、大変なときは「自らを大きく変える」ときであり、また、大変な毎日、大きく成長できる毎日でもあります。昨年度の事業計画の理事長方針で示した通り、後進の歩むべき道を

拓き、道を照らし、道を示し、5つの事業の輪(福祉・介護・医療・教育・農業)を描くというミッションは、この25年間で円環しました。

第二の創業期にふさわしい新たなリーダーの下、百年後もこの「いたるイズム」進取の精神が継承されるよう、持てる力を尽くして職員たちを導いていきたいと存じます。

II 令和3年度(2021年度)の目標

「第一の創業期」として、持続・継続可能な地域共生社会の実現に寄与します。

III 事業方針

(1) 持続継続可能な法人経営の推進

理事、監事、評議員の改選にあたり、今後ともさらなる地域福祉の充実と地域包括ケアの確立を目指す法人経営を推進します。

(2) さまざまな障壁を克服する事業運営の確立

就労、介護、看護、保育など、それぞれの福祉サービスの原点に立ち返り、支援ニーズに対するきめ細やかな対応の実現に努めます。

(3) 第二の創業期の指針となる中長期事業計画の策定

事業の成長と人材の育成のバランスを熟考し、安全安心に、安定した地域福祉

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。  
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。  
年会費 1口5千円(何口でも可)  
郵便振り込み 00110712892  
(間) 330927346 事務局山本まで

サービスを提供するための中長期計画策定をスタートします。

(4) 教育ドメインの新たな強化

福祉職に就くものとしての共通意識やスキルを高めるとともに、専門性やチームワーク、管理能力を向上する教育体系の再整備・再強化を進めます。

(5) SDGsに基づく「人も取り残さない」地域包括ケアの推進

- ・世田谷地区に訪問看護ステーション(サテライト型)を新設
- ・共生型グループホームの新設
- ・障害者グループホームの「のれん分け」制度の活用

(6) 「ゆりかごから墓場まで」の切れ目のない総合福祉サービスの実現

- ・学童保育、放課後等デイサービス、高齢者デイサービス(リハビリ)、高齢者グループホーム、児童発達支援事業所の新規立ち上げ
- ・上記5つの新規事業を中長期で実現します。

ジャン・イタル医師の「進取の精神」をもって支援の質の向上を追求しつつ、さまざまな環境整備を推進してまいります。今後とも、社会福祉法人いたるセンターに、変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

令和2年度第4回職員研修特集

# コロナ禍におけるBCP

令和2年度第4回職員研修は、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、今回もZOOMによるリモート研修にて、2月13日の土曜日に開催されました。谷山哲浩理事長による訓示は「第二の創業期のスタート」というテーマで、外部講師研修は「コロナ禍におけるBCP」について、危機管理の専門家である株式会社フォックスブルーの代表である早川英樹氏を迎えました。現在、早川氏は、社会福祉法人いたるセンターの各施設のBCPマニュアル作成を行っており、コンサルタントとして活躍されています。

今回の早川氏の講義では、特に新型コロナウイルス感染症対策を中心に、各事業部責任者のアンケート質問を事前に分析していた。①感染予防・対策はどうしたらよいか、②事業運営はどうすべきか、③判断基準はどう設けるか、④グループホームの対策は、といった4つのカテゴリーに分けてご説明をいただきました。「3密を避ける」とは、密閉空間・密接場面・密集場所を避ける、「適切なマスクの適切な装着」、「こまめな手洗い、こまめな消毒」といった基本を徹底するためには、新型コロナウイルス感染症を「正しく理解し、正しく恐れ、正しく備える」ことが重要と定義。感染症リスクの段階については、「ウイルスの施設内侵入の低減↓室内のウイルス濃度の低減↓手指へのウイルス付着の低減↓ウイルスを直接かぶるリスクの低減↓ウイルス

体内侵入の低減」としました。

また、風評被害についても触れ、情報開示に関する法人・施設としての基本方針や開示する情報の内容をあらかじめ決定しておくことが重要とし、事後に状況を見て判断することは避けなければならないことを学びました。

さらに、BCPマニュアルの策定にあたっては、①制限の基準、②再開の基準、③情報発生後の業務仕分け、災害発生後の非常時シフト構築、⑦職員の休業補償の基準、⑧感染予防、についてマニュアル化し、法人全体および各施設が取り組んでいくことで結びとしました。

26/37 ■これからの施設としての取り組み  
 新型コロナウイルス感染症の感染拡大発生時の事業継続計画 (BCP)  
 II  
 新型コロナウイルス感染症の感染拡大発生時の事業運営マニュアル  
 出勤制限・登施設制限 (自粛) を判断する基準  
 出勤再開・登施設再開を判断する基準  
 情報の取り扱いと情報開示の基本ルール  
 感染拡大の状況下での業務の仕分けとシフト構築  
 職員の労務管理 (休業補償)  
 助成金等の活用など  
 感染予防 (防疫) マニュアル  
 施設内の消毒  
 換気  
 ソーシャルディスタンス  
 検温 (表)

事業継続計画 (BCP) のマニュアル化を図ります

**受講した 職員の感想 (抜粋)**

やはり基本が大事であることを再認識しました。換気は常時行いたいと思いますが、ご利用者様に窓を開められてしまうこともあり。今後は、着衣の工夫で常時換気を行っていきたいです。

コロナを正しく恐れる、3密を避ける、といった私たちができることをあらためて再確認した。日々、消毒作業を行っているが、その目的と意味を深く理解したことで、その方法もそれぞれ変わってくるのではないかと思った。

あらためて、手洗いとマスクの大切さ、密閉・密集・密接の意味を確認できてよかったです。コロナ以前の感染症対策との違いとして「本気ではなかった」と早川講師がおっしゃっていましたが、その通りだと思いました。コロナ禍で手洗いやマスク、換気を気遣ってから、インフルエンザや風邪が職員・ご利用者様ともにほぼなくなっているからです。他の事業者等も見ておられる早川講師の具体的なお話を伺うことで、さらに気が引き締められました。

感染予防の対策は漠然と理解しているつもりになっていたが、あやふやであることを自覚した。今回の研修でしっかり把握することができたと思う。各事業部との質疑応答が大変参考になった。

事前にアンケート調査をしたことで、方向性が理解でき、スムーズに講義を受けることができました。正しく理解することで、BCPだけでなく今後のコロナを考えるきっかけになったと思います。

施設内で必要な対応、危機管理、事故が起きた時の対応など、具体的な事例をまじえてご講義いただき、とても分かりやすかったです。これからもコロナと共存していく日常になるかと思っています。自分たちができることを、ご利用者様とともに安心安全に過ごしていくために必要なことを日々考え、実行したいと思います。

包括ケアセンター グループホーム事業部

# 世田谷区成城9丁目のグループホーム「アント」、 令和3年5月に開設します



地域包括センター・グループホーム事業部では、世田谷区成城に新たな障害者グループホーム（共同生活援助）「アント」を開設します。

開設予定は令和3年5月、定員5名の男性用グループホームです。耐震性のある木造住宅を全面改修した2階建ての建物に、1階に1居室、2階に4居室を設けました。居室は8・28㎡で、ダイニングは

23・18㎡と開放感ある広さを確保しています。成城8丁目にある「イタル成城」も近く、世田谷地区の地域福祉の輪をまたひとつ広げてまいります。



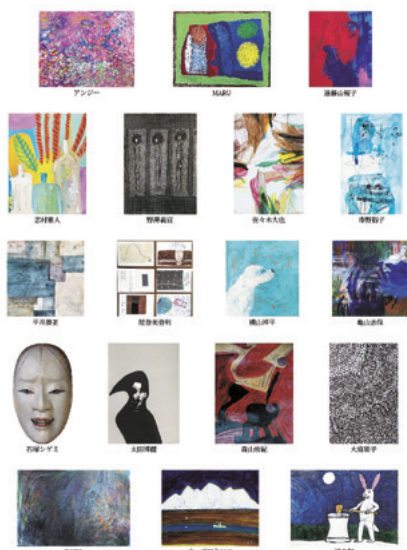
耐震性のある木造住宅を全面改修した2階建ての建物が、5名のご利用者様の生活拠点に

イタル成城 生活介護事業部

「語りかけるものたち」展にて、  
イタル成城のご利用者様の作品を展覧



銀座3丁目のギャラリー 枝香庵にて、2月9日から16日まで開催された「語りかけるものたち」展。この展覧会を企画した金子光史さんは、社会福祉法人いたるセンターの障害者通所施設「イタル成城」生活介護事業部のご利用者様のアート活動をご指導いただいております。同展覧会では、ご利用者様のアート作品は、ご利用者様のアート活動への熱意は消えることはありません。今後の展開にご期待ください。



「語りかけるものたち」展  
2021.2.9 - 2.16  
イタル成城

ピックアップいたる

今年4月入職の新入職員は18名!

# 令和3年度新卒(学卒)内定者研修

令和3年3月9日、今年の4月から入職する新卒(学卒)内定者のための研修が行われました。例年であれば、法人本部で行う内定者研修ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ZOOMを使ったリモート研修が多くを占めていました。しかし、入職前の最後の内定者研修では、荻窪タウンセブンホールを借りて開催。17名の内定者が揃い、自己紹介を行いました。メインの研修は、包括ケアセンター・グループホーム事業部の坂梨統括リーダーによる「グループホームについて」の説明。住まいのなかで日常生活を支える共同生活援助について、そのあり方や支援のやりがいについて語ってくれました。最後は、晴れ間の覗いた屋上で全体集合写真を撮影。充実した研修となりました。4月から入職する仲間たちを、どうぞよろしくお願いたします。



17名の新卒(学卒)内定者が集い、半日間の研修を受講しました



グループホーム事業部の坂梨統括リーダーが登壇し、共同生活援助について説明

## 法人見学ツアーについて

※現在、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、法人見学ツアーの実施は見送っております。再開の際には、本紙にて内容や日程をお知らせいたしますので、もうしばらくお待ちくださいませ。

電話：03-3392-7346  
本部・人事採用担当：山本 義彦

## いたる広報委員

発行責任者＝谷山 哲浩  
社会福祉法人いたるセンター  
〒167-0032  
東京都杉並区天沼1-15-18  
TEL：03-3392-7346  
FAX：03-3391-8039  
Eメール：info@itarucenter.com  
HP：http://www.itarucenter.com/  
発行日/2021年3月15日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。



現在、  
鋭意制作中!

新法人ウェブサイトに  
ご期待ください



現在の社会福祉法人いたるセンターのホームページは、スマートフォン等での閲覧に不向きであったため、この課題を解消するために新たな法人ウェブサイトを制作中です。



新法人ウェブサイトのトップページには、ご利用者の生き生きとした表情を捉えた写真を採用いたしました。キャッチフレーズには、「いたるところを、ポスターレスに」という言葉を配しています。

各事業部が新しい情報をアップロードできるようなシステムを採用し、より身近な法人サイトを目指していきます。完成しましたら、本紙にてお知らせいたしますので、よろしくお願いたします。